



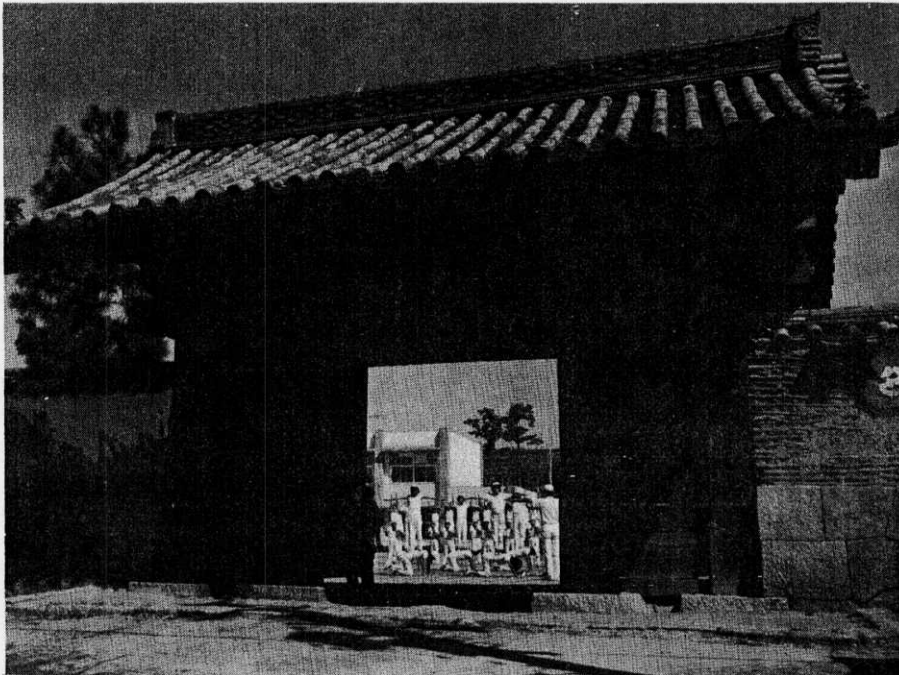
道を歩かぬ人、  
歩いたあとが道になる人

— 河井寛次郎

あえて新しい困難を求めて生きながら、  
なお、いたずらに新奇を追うのではなく、  
伝統を創り出すものの重い責任に耐える  
—— そういう人間になりたいと願うがゆ  
えに、年来、この言葉を愛している。

お茶の水大学教授

外山滋比古



(総門のある学校 大樹寺小)

昭和49年10月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会

# 食品の危機

名古屋市立大学助教授

青山光子



豆腐、食肉や魚肉ハム、ソーセイジなどに使用されていた合成殺菌料A F 2が、十月から使用禁止になりました。

昭和四十年七月、それまで合成殺菌料として使用されてきたニトロフラゾンに代わるものとして、A F 2が登場したわけですが、最近になってその安全性に疑問がもたれ、カイコやバクテリアなどの実験で突然変異性が強いことや、マウスの実験で発ガン性が認められたことから、ついに使用の全面禁止という形でこの問題に終止符が打たれることになったわけです。

安全性に問題があることが明らかになった以上、使用禁止にすることは当然で、大いに結構なことですが、今回のA F 2問題は、食品添加物の安全性問題の氷山の一角で、ただ一種類の合成殺菌料の使

用禁止というだけではすまされない、大きな問題点を残しているような気がするのです。

昭和四十年代にはいつてから、すでに四十種類に近い食品添加物、たとえば合成着色料、発色剤などのうち、いろいろなものが使用禁止になっています。

それまで長い年月の間、何の疑問もいれなく、種々の食品に使用されてきた添加物が、動物実験などの結果、その毒性が明らかになったことで、使用禁止という措置がとられるといったことが、ほとんど毎年のようにくり返されているわけです。

このようなことがくり返されていると、今まで有害とも知らないで、体内にとり込んできたこれらの添加物によって、かたに異常はないのだろうか。あるいは

現在許可されているものは、絶対に大丈夫なのだろうか。もし、個々の添加物は安全としても、一日七十〜八十種類の添加物が体内に入り込むとして、相乗、相加作用があらわれたりしないだろうか、そんな疑問が次々にわいてくるのも、当然のことではないでしょうか。

このような食品添加物について不安の多い現状では、その安全性を早く確認して、不安なものは一刻も早く除いてほしいと思いますが、それと同時に、行政も業者も、消費者も、もう一度いったい食品添加物は何のために必要なのかということ、を、原点に立ちもどって考えてみる

ことが大切なのではないかと思うのです。食生活の合理化を求めあまり、食品には保存料や酸化防止剤が入れられて、日もちがよくなり、見た目が美しく、食欲をそそるようになると、着色料、漂白料が使われ、また、手軽に食べられるインスタント食品や、レトルト食品が大いに普及しました。

けれども色つき食品、漂白食品のほんだ、子どもたちは食品の自然の色を知らなくなり、また、添加物の多いインスタント食品の味になれてしまつて、それぞれ、家庭独特の味が失われてしまいました。

子どもたちの健康を守るためには、標示をよく見て、食品添加物の少ない食品を選び、家庭での手作りの味を楽しむようにすることが一ばん大切なことだと思います。

いまはむかし

遠足



●楽しさは平等

鳴くやひばりの声うららかに  
かげろうもえて野は晴れわたる  
いざやわが友うち連れ行かん  
きょうはうれしき遠足の日よ

(小学唱歌)

運動会、学芸会とともに、むかしから三人行事のひとつ。特に遠足は無性にうれしかった。運動会は足の遅い者にとつて気分が重い。学芸会は優秀な子が活躍する。そこへ行くと遠足は、どの子にとつても平等に楽しい。

●弁当とおやつ

特別大きいおにぎり、ノリで巻いてあるのはいい家の子、焼いて持って行った子も多い。おやつは、煎った豆、サトノキ(さとうきび)、キャラメルにスルメくらいなもの。○円以内なんてケチなこと

は決めてなかったが問題はなかった。

白いふろしきに包み、背中にしょって新しいぞうりをはき、足よりも軽く嬉々として出かけたものだ。

●歩け歩け

「遠足とは歩くことなり」というのが

岡崎女郎衆 唄三絃 中村くに  
採譜 永見貞三

# 岡崎女郎衆



かつてはどこの町内の祭にも見られた山車が姿を消して久しい。その間の事情はくわしくは知らぬが交通事情によるところが大きいと聞く。しかし、なんといつても最大の理由は世代の交代期を迎え郷土の行事に関心を寄せる若者のいないことであろう。

このふるさとの歌シリーズの取材に当たって特に感ずることは昔から歌い継がれてきた多くの歌が忘れ去られようとしていることである。四月号の山中八幡宮の神事にしても、九月号の長持ち歌にしても一部の人の尽力によって

## 歌にしのぶふるさとの心

守り継がれているのが現状である。ふるさとの地に生まれ育ってきたこれらのものがいま現実には失われつつある。それは目に見えない郷土の貴重な財産であるといえよう。幸い心ある人々により細々とではあるが記録され形あるものにして残そうという努力がなされている。

現職教育音楽部でもこのシリーズのタイトルのように口伝えに歌い継がれてきたふるさとの歌を採譜することにより楽譜という形で記録し、残そうとつとめている。(竜中 加藤明)

岡崎女郎衆はかつては全国的にうたわれた唄であるが今日ではこの唄を知っている者はほとんどなく、むしろ県外の心ある学者によって知られている程度である。この唄にうたわれた岡崎女郎衆は東海道五十三次の宿場、岡崎宿駅にあった百五十軒ほどの旅籠屋に置かれていた飯盛女のことである。この女たちは街道を往来する大名、その他一般客に招かれて三絃をひき、うたを唄い、踊りを舞うなどしていた。

この唄は、岡崎ぶし、岡崎おどりともいい、初めは踊りの唄であった。そして寛永年間には箏曲にも用い、ついで一節切や、三絃にも用いられた。また曲調によって元禄年間には、都岡崎(陰旋法)、在郷岡崎(陽旋法)、二上り岡崎、と区別された。

都岡崎は箏の手ほどきとして長く用いられてきたが、明治に至り歌詞を教育的配慮から、姫松小松という題にして今日に至っている。

姫松小松 姫松小松  
みどりの色ませ春ごとに

最大の思い出だ。「今は山中今は浜……」とか「見よ東海の空明けて……」とか歌いながら、ぞうりやゴム靴を砂ほこりてまっ白にして歩いた。足に豆ができたりに平気。棒切れにふろしきを結んで、風になびかせ意気揚々と帰ったもの。

### ●こぼれ話

目的は、真福寺とか、滝山寺、岩津天神などのように、神社仏閣が多かった。そのほか、名所旧跡もおきまりのコース。春と秋のシーズンには、いくつかの学校が鉢合わせ、昼食後集合してみたら、よその学校の子がまきれ込んで並んでいたなんてこともあった。

秋も末、あぜ道を掃って来たところ、何と思つたかA君、まがり角のこえだめをひよいと飛び越えようとしたが……。白いセーターが黄色に変わり、引率教師の顔が青くなる。近所の農家へかけ込んで湯をわかしてもらい、頭からザアザアといった始末。

### ●バス利用激増

戦後、「鍛える」ということは忘れられ、「体力・能力に応じた」校外学習になった。歩けないのか、歩かせないのか議論の分かれるところだが、交通事情もあって観光バスの利用がふえた。このため、小学校で行った所へ中学校でもまた行くということさえ起きるようになった。

(青木嘉夫・川島良夫・市川雅子先生のお話から)

## 研究のあゆみ

司会 「教育の現代化」というテーマを、日常実践の中でどう生かしているか、話し合っていたらどうかと考え、小・中規模地域を考慮して七名の先生方にお集まりいただきました。

大変なテーマですが、話の糸口にもなりませんので、実践の概要を話してもらいましょう。

高瀬 「評価」を中心テーマに、個人差に応じた指導法を研究してきました。特に指導法についても、評価を通してその改善をはかりたいと考えています。

竹内 わたしの学校では、ビデオデンスケがはいつてから、先生方が教材の自作を盛んにやっています。

わたしも、この夏休みに「川の水の働き」について、男川水系を取材して教材づくりをしました。

筒木 わたしの学校は、学習活動、教育機器・図書館・環境の四部会に全職員が分かれ、「豊かな情操とたくましいからだ」を持った生徒を育てようとしています。

わたしは、教育機器の研究部に所属して、視聴覚室の運営、アナライザーの自作、情報検索のための資料整理など、教育機器を活用した教育のシステム化について、研究を進めています。

本多 わたしの場合、小学校家庭科主任会の北ブロックで、「なみ縫い」と「ミンシンの使い方」の二本のビデオ教材を作

## 特集

## 機器にとりくむ

## 座談会

- と き 9月11日
- ところ 視聴覚ライブラリー

りました。

夏休みの実技講習会でこれを使い、大変好評でしたので、いま第三作として、「部屋の装飾」の教材づくりを進めています。

阿部 なかなか立派な実践ではないですか。女の先生方がそういう研究を進めてくださることは、大変素晴らしいことですよ。

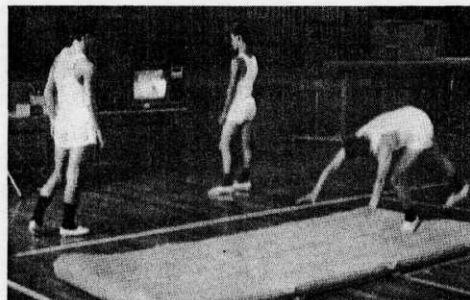
大久保 わたしは体育指導の中で、VTRのカガミ利用による指導を考え、七年ほど続けています。

堀田 わたしの学校には、昨年まで複式学級がありましたので、シンクロファックスによる指導を研究してきました。今年は複式がなくなり、プログラムの学習以外の学習の個別化に、シンクロをどう利用するかについて研究をしています。

浅井 わたしの学校は、市内で初めてカラー受像システムが設備されましたので、学校放送テレビ番組の利用を中心に実践しています。

## VTRの活用

司会 岡崎市では、全小学校へVTRを設置していただけましたので、この活用について、もう少し話を深めてください。  
大久保 体育の場合、目標に到達できたか、できなかったかがはっきりしますが、ただ細かい技術ということになると、例えば、「脚が曲がる」というようなことが問題になるわけです。



自分のフォームに見いる生徒 (矢作中)

その時、生徒たちが自分の演技を自分で知っているかいないかは、指導する上で大変重要なポイントになります。VTRで自分の演技を記録し、再生画像で確認させることが非常に効果的なのはそのためです。

司会 先生は、ポータブルビデオ二台を使って指導されたこともあるんですね。  
大久保 そうです。録画と再生の機能を二台のVTRに分担させると演技をした生徒がすぐ演技の録画が見られますから、カガミ利用としては、この方が本格的なわけです。

しかし、生徒たちだけに見せておくと、どこが悪いのかとか、どこをどう直せばよいかを見つけてくれないんです。やはり、教師の助言が必要です。だから、ス

出席者（写真 右から）

浅井 稔	藤川小教諭
堀田道夫	恵田小教諭
大久保慎一	矢作中教諭
本多光子	広幡小教諭
筒木幸夫	甲山中教諭
竹内昭次	福岡小教諭
高瀬昭三	城北中教諭
阿部俊房	視聴覚部長
中村 巽	視聴覚指導員
大野洋鶴	甲山中教頭



チールにしたり、スローにしたりして再生しながら指導した方が能率的ですね。浅井 放送番組の利用でも、VTRに録画して使った方が、子供たちもよくわかるようです。

筒木 同感。先生も気分がいいですね。

幅広い視野のもとに

司会 自作教材への利用は……。

本多 示範や実物では見にくい子どもが出てきますが、ビデオにとると、アップ

したりして、よく見せることもできます。

筒木 現場学習で地層の学習をさせたんですが、教室に帰ってみたら、見落として

いる子どもがいるんですよ。そのとき

とってきたビデオを見せたら、よく理解

してくれました。

浅井 何よりも安あがりだということが

最大の特徴ですよ。

司会 VTRはそのぐらいにして、他の

教育機器についてはどうでしょう。

筒木 機器には、長所と限界があるわけ

ですから、それぞれの機器の特性を生か

して使えるようにすること、教師の機器

から生徒の機器へと開放することも大切

だと考えています。

堀田 複式学級では、必然的に教師の直

接指導が受けられない時間が生じますの

で、ここでシンクロを利用したわけです

が、いまは、個人差の中でも能力のある

子どもに次の学習を指示する方法として

シンクロを利用しています。遅れた子ど

もは、マン・ツウ・マンで指導できるわ

けです。

高瀬 能力差に応じた指導を考える場合、

開発されたハードウェアの特性を生か

すためには、同時にソフトも十分用意さ

れる必要があるわけです。

司会 教育機器の活用、教材の整備、指

導法の研究などが、ひとりひとりの子供

を生かすという方向で、システム化され

ていく努力がうかがえたように思います。

阿部先生のお話で、この会をまとめたい

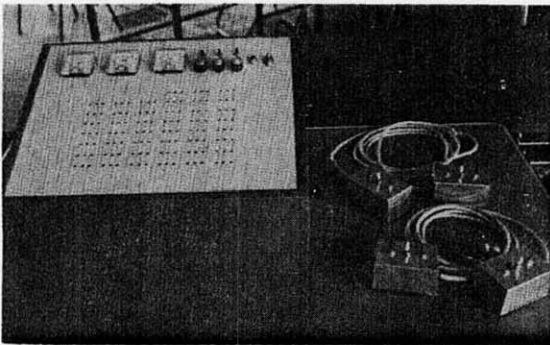
と思います。

阿部 教育の現代化と言っても、さまざま

な考え方があろうのですが、先生方の

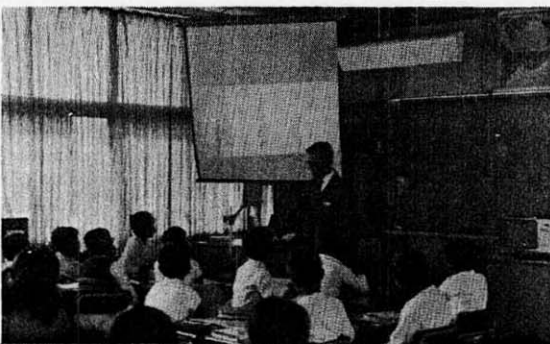
前向きな姿勢には頭がさがります。

ただお話を聞いていて、やや微視的と



自作アナライザ

(甲山中)



OHPで学習を深める

(福岡小)

申しましようか、一時限の授業、それも教師のひいたレールの上を、子どもがどう走るかを問題にするといったことに力点が置かれたように思えたのです。

例えば、放送利用についても、VTR

録画が良いと断言してしまうところでは

もう少し巨視的に教育というものを考え

てみたとき、図書館教育のように生涯教

育に発展させ、情報化社会に生きる人間

としての「情報処理能力」を育成するた

めの放送教育というような考え方にも理

解を示すような幅広い視野も必要ではな

いかと思うのです。

今後福岡の教育のために、お互い

がんばっていきましょう。

## 一 講演要旨

## 学習の個別化と機器の位置づけ

国立教育研究所図書館長

主原 正夫

本日与えられた演題は、まことに今日のテーマでありますが、わたしたちは、個別化・効率化というものと教育機器というものを簡単に考えてはいかないんじゃないかと思えます。

今日、教育機器というものは使わなくてはいけない大事なもののなんでですけど、それを教育の中に導入してこようと思っても伝統的な教育のシステムというものが厳然とひかえているものですから、すんなりと安定してはいっていけない。なかなか今日の教育に結びつかない状況があるわけだ。

個別化ということを考えてみますと、それは、先生がどういう教え方をするかということと密接に関わってくるわけですねよく考えてみますと、最近、学習活動とかいうふうな概念・ことばが使われるようになって、学習者のあり方というものが非常に注目されておりますけれど、

これは、個別化を実現する条件として大切なことなんです。

しかし、教育機器というものを目を向けてみますと、現状はその名の通り、教具・教材で、先生がお使いになって、ティーチングのための補助にされるものである、学習者の方は、それを見せられて使っているという、根本的な姿勢があるわけです。それではだめです。

つまり、教育機器は先生のためにだけあるのではなく、先生と学習者ふたりのためにある、とくに今日の段階では、学習者にこれを利用させるように意識して、積極的に使用の方法や形態というものを考えていかななくてはならないということなんです。

もちろん、数十、数百の大きな集団で使うこともありませけれど、小集団で、あるいは個人的に使えるように、ハードな使用の方、それに見あったソフトの

## かがみ

## 負うた子に教えられ

三浦久子

二期が始まったある朝、私のクラスが職員室の近くで、私が行くのを待っていた。

「先生、きのう本を買ってきたよ」という。聞けば以前「ちょっとむつかしいけどおもしろいよ」といって貸した本の続編なのだ。

「先生、まだ読む本があるから貸してあげるよ」といった調子。

Yは大の理科好き。旺盛な知識欲。電気のこと、宇宙のこと、化学のこと何でもこいといったあんばい。

ある理科の時間、Yのおしゃべりに一段と拍車がかかり、とどまるところを知らない。私に話をさせないくらい。

「金属と水よう液」のところで、「水素をもっと多く出すには？」という質問に「先生、亜鉛を細かくするといいよ」と、自信ありげな答え。

私は予想外の意見に驚いたり感心したり。

「子どもたちに負けずに本を読まなくちゃあ」と考えているきょうこのごろである。(三島小)

準備というものを我々はしていかなくてはなりません。

書物の場合、長い間、人間形成のために、これが教育・教養全体にわたって使われてきておりましたから、その利用について、人間的配慮というものが、私われてきたわけです。書物の読み方・学び方というものについては、かなりきめ細かい配慮がなされ、お互いに身につけているわけなんです。ところが、教育機器は、だいたいだ、だいたいと言われながら、一方的に一回だけ見たら、みんなわかるようなことを言うんです。こんなことは、魔術だと私は思うんです。

映像だって——場合によっては本にだって通読があるんですから——通読したっていいでし

よう。本を引っこ抜いて、繰り返し読むと同じように、スライドとかTPとか、その他必要に応じて、セルフラーニングというものが成立する条件というものを、我々の学校に高めていくことが必要になってくるわけがあります。

豊かな教材・資料というものが用意されて、これからは、子供たちの意欲なり能力に応じて選択をしていくことのできる学習条件を作っていくかなければならない。私は、そういうことが個別化への一つの方向であると考えていたのです。

今のうちに、数十・数百の者と同じものを一回見せて——手から口へというような我々自身の貧しい考え方でなしに、先生

の方でさまざまな資料を用意し、子供たちが積極的に選択できる条件を整えていってやる。

ある教材は、ある学級の場合には、たった数人の子供しか使わないかもわからない。教育をそういうふうにしていく。これが、子供の個別化・積極的な学習活動というものを推進していくことになるのではないかと思わうんです。

今日の教科書を主たる教材とする伝統的な教材制度の中で、個別化への方向に進もうとすることは、まさに教育革命といふ名に価するほど非常に地道な大きな努力を傾けていかないとできない問題なんです。

(甲山中・梅園小・根石小現) 職教育／九月六日 文責 松井きよ子



### ■十月の研究発表校

【本宿小】

九日▽主題「子見を育てる社会  
科学習▽内容「公開授業、研究  
発表、講演「社会科学習と民間  
伝承」東京教育大教授文学博士  
桜井徳太郎先生

【常南小・常東小・恵田小】

### 論文「能動的なライブラリー運営」

### 視聴覚教育賞第一位入選

市視聴覚ライブラリーは、かねて全国視聴覚教育合同大会の募集に応じて論文を提出していたが、この程本年度視聴覚教育賞ライブラリー部門第一位に入選した旨発表された。

応募論文は「視聴覚教育を育てる能動的なライブラリー運営」と題して、公立化された同ライブラリーの広範多岐に亘る施設充実、サービス、指導研修、公報等の積極的な活動の状況と将来像を担当の中村指導員を中心に現職教育視聴覚部が協力してまとめたもの。なお表彰は、十一月二十八日から三日間にわたって横浜市で開催される全国大会の席上で行なわれる。

### ■都市美化啓もう作品募集

都市美化をめざす市民として

二十五日▽主題「常南・ひとり  
ひとりの考えを育てる授業(算  
数)常東・学ぶ心、力を育てる  
学習指導(国語)恵田・ひとり  
ひとりの力を伸す学習指導(理  
科)▽内容「午前(各校)公開  
授業、分科会、午後(常南)発  
表、講演「学校は死んだ」東京  
女子大助教授川上源太郎先生

美川、香山【十月】▽5日「男  
川、美合▽6日「根石、南、竜  
海、葵、城北、福中、東海、河  
合、常中、岩中、矢中、六中▽  
9日「甲山▽12日「羽根▽13日  
「梅園、細川、岩津小▽20日「

### 刊行あんない

### 実践・研究成果相次ぐ

▽おかざき東海風土記 東海中  
古くから栄えた学区の歴史や  
民俗を知り、よりよい郷土建設  
を願う生徒と先生の三年間に  
わたる調査、研究成果。郷土  
学習の好資料。印刷、装丁が美  
しい。A5判、二三〇ページ。

▽環境保全ハンドブック 河合中  
全国的に著名な源氏螢の飼育  
をはじめ、野鳥、植物などの保  
全教育に成果をあげる同校なら  
ではの具体的、実際的な異色の  
資料集。新書判一一二ページ。

### 関心を呼ぶ公害雑草撲滅運動

### 生物サークルも調査で協力

六名、三島、広幡、井田、藤川 六北▽27日「岡崎、連尺、本宿  
常磐小、大樹寺、矢東、矢北、 奥殿、【十一月】▽10日「常東  
竜城ライオンズクラブが主唱  
し、河合中学校が協力して始ま  
った公害雑草セイダグアカワダチ  
ソウの撲滅運動が大きな関心を  
呼んでいる。  
中でも熱心なのは理科部生物  
関係の先生方。去る九月二十二  
日には自主的なサークル活動と  
して市内三百以上の箇所を繁殖  
分布状況を調査した。「今のう  
ちに全市民的な運動で除去しな  
いと手に負えなくなる」「アメ  
リカザリガニ以来の帰化生物の  
脅威」とは調査に当たった先生  
方の声だが、一方「僕らも撲滅  
運動を」と、生徒会活動で進め  
る声も出ており、こうして全国  
でも珍らしい公害追放運動の成  
果が大いに注目されている。

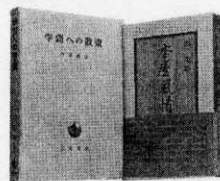
とめた授業での哀歓と、成長す  
る子供たちの時々の姿態がさわ  
やか。一編八〇〇字の記録が六  
十九編。新書判、一六〇ページ。  
▽たんぼぼの詩 矢佐幼稚園  
「新しい保育実践」をめざす  
教師たちが「日々の保育の中で  
ふれ、味わった童心の妙味、教  
師のだいご味」を綴ることから  
「幼児観の再発見」と自己革新  
を果たしていく感動の記録。ふ  
んだんに使った写真やカットが  
いっそう楽しい読み物としてい  
る。変形判一八四ページ。

▽河合の植物歳時記 永田績著  
採集した植物を丹念な絵と文  
章にあらわし、毎月の「花だよ  
り」として学区に配布し自然保  
護の資料としたもの八十編を取  
録。A5判、一九〇ページ。  
▽ときわの教育「ふれ合いによ  
る個の育成」(紀要と資料)  
常磐小中合同研究会編  
創造力豊かで主体的な子ども  
への変容をめざして取り組んだ  
二年間の合同研究の歩み。  
▽教師の手帳 一子らを見つめ  
て—— 矢作東小学校  
全校教師が教案の余白に書き

て—— 矢作東小学校  
全校教師が教案の余白に書き

## 10月の行事

日	曜	行	事
1	火	新任教員研修会	月報編集委員会 (市役所)
2	水	算数・数学部講演会	菊地兵一先生 (南中)
3	木	小中学校理科作品展	(8日までレオ5階)
4	金	愛教大附属岡崎中研究発表会	
5	土		
6	日	理科作品展表彰式(レオ5階)	市民軟式庭球大会(公園) 第1回西三河子ども集い(勤労会館) 中学校運動会
7	月		
8	火		
9	水	本宿小学校研究発表会	市社会教育審議会(市役所)
10	木	体育の日	市民体育祭 (公園グランド)
11	金		
12	土	教育文化大学特別講演	紀野一義先生 (岡信中央支店ホール)
13	日		
14	月		
15	火	県小中学校長研修会	(三河ハイツ、16日まで)
16	水	月報編集委員会	(市役所)
17	木	カナダ、ウイニベグ市児童来岡	(28日まで美合小)
18	金		
19	土		
20	日	小学校運動会	中学校新人総合体育大会(公園グランド他) 市民秋季総合ソフトボール大会(大門グランド)
21	月		
22	火	新任教員研修会	県進路指導研究協議会 (甲山中)
23	水	定例校長会 (巽閣)	市保健主事研修会
24	木		
25	金	常南・常東・恵田3小学校研究発表会	(恵田)
26	土		
27	日	講座教育文化大学/新行紀一先生	(岡信中央支店ホール) 万人卓球大会 (市民体育館)
28	月		
29	火	現職教育理科部現地研修会	
30	水	第27回岡展 (4日まで美術館)	高校選抜説明会(竜海中) 健康優良児童生徒実地審査会 (甲山中)
31	木		



この本を

- 私の読んだ本 松田道雄  
岩波新書 46・11 ¥ 230
- 考える技術・書く技術 板坂 元  
講談社現代新書 48・8 ¥ 350
- 学問への散策 内田義彦  
岩波書店 49・3 ¥1400
- 本屋風情 岡 茂雄  
平凡社 49・7 ¥ 940
- 西欧の顔を求めて 犬養道子  
文芸春秋 49・8 ¥1200
- 日本の「私」を求めて 佐伯彰一  
河出新社 49・8 ¥1000
- 光陰 唐木順三  
筑摩書房 49・8 ¥1600
- 日本語のために 丸谷才一  
新潮社 49・8 ¥ 750
- 父 吉川英治 吉川英明  
文化出版局 49・9 ¥ 750
- 三河男児 (志賀重昂伝) 福岡寿一  
東海タイムズ社 49・9 ¥1300

寸言

▼燈火親し草稿の燈にぬくむさへ

大野林火  
大気澄む十月は夜の灯が美しい。燈下親し。書に親しみ、家族団欒に秋燈がよい。

▼「教育機器」がどの職場にも普及した。「教育危機」ではない。「創造と開拓」「不易流行」という。また味わうべし。

▼一人一人の子供を大切に育てたい。一斉学習の流れの中に沈んでしまう子供の器をとってやろう。そのためには教育機器があるのだ。